
桜花学園物語

仁義

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜花学園物語

【Nコード】

N29860

【作者名】

仁義

【あらすじ】

それはたった一本の電話から始まった。

これは、とあるバカ親父のせいである意味とんでもない学園に入学させられた俺「後藤美栄」のその学園におけるハチャメチャな日常を描いた物語である！

王花学園物語・始まり始まり〜（て最後ぐらい真面目に締めろよ！
by主人公）

ブログ始まりは、たった一本の電話（前書き）

またやってしまった………なぜいつも考え無しに新しい小説を投稿してしまうのか………こんな作者ですが、どうか見捨てず応援よろしくお願いします。

ブローグゝ始まりは、たった一本の電話ゝ

それは、たった一本の電話から始まった。

s a i d 主人公

「はあ！？ちよつとまで、今なんて言ったクソ親父！」

「なんだ？しばらく会わんうちに耳が悪くなつたか？まあいい、ならもう一度言つぞ……………」

実はな、

お前の進学する高校だが……………」

俺が勝手に決めちまつた（笑）」

俺「はあああああああああああ!？」

俺こと『後藤美栄』^{ごとう・よしひで} 高校生活は、こんなふざけたバカ親父の電話から始まった……………

ブローグゝ始まりは、たった一本の電話ゝ

美栄「おいこらどういう事だ、このバカ親父!なんでてめえに俺の進学高校を決められなきゃならん!」

親父「それは……………まあ、あれだあれ、ちよつとし「ちよつとしたノリとか言つなよ(怒)」すいません話だけでも聞いてください(泣)」

美栄「ちつ……………いいだろう、ただし下らん理由だった場合は……………解るな?」

親父「ハイイイ!解っております!」

美栄「よし、では説明しろ」

親父「あ、ああ実はな……………」

と、言う訳で親父の説明を聞いたところ。

親父とその（俺が進学する高校）学園の学園長は知り合い 少し前に親父にその学園長と久々に会って会話していたら俺の話になった俺のことを聞いた学園長が俺を自分の学園に来させないかと誘う親父がそれを承諾（理由はそれを知った時の俺の反応が面白そうだったから）
ということらしい……………

美栄「……………って、やっぱりめえのせいじゃねえかあああああ
！」

親父「す、すまん、まさか本当にやるとは……………」

美栄「本心は？」

親父「面白そうだから承諾した、反省も後悔もしていないっ！」

美栄「よし、居場所教えますすぐ殴りにいく（怒）」

親父「すいません、許して下さい美栄様」

美栄「ちっ、たく……………調子いいんだから……………わあったよ、もう決まっちゃったんなら文句のつけようも無いしな。
いいぜ、いつてやるよその学校」

親父「ほ、本当か！？」

美栄「ああ、丁度平凡な日常に飽きてきた所だからな、今回だけ特

別だ。

で？そこなんて学校なんだ？」

さすがに名前すら知らん学校なんざにはいけないからな。

親父「あ、ああ聞いて驚け」

「この時俺はまだ知らなかった」

親父「その学校はな」

「その学校に行くことが、俺にとってある意味最悪で」

親父「王花学園っていうところだ」

「ある意味最高な出来事であることを」

第一話〜自宅到着・驚愕連続〜

s a i d 美栄

美栄「さて、ここがこれから俺が住む場所か……………」

あのバカ親父との電話から一週間、俺は今、俺が転校する学校『王花学園』がある町『光花町』にある自宅へと向かっている

「やれやれ、なんであのバカ親父は……………ん？ここを右……………は？」

……………はつきり言おう、今俺は眼を疑っている、なんせ俺の目の前には「豪邸」という言葉を5、6倍位にしたレベルのバカでかい家があるのだから

「……………親父、あんたなんて無駄な土地と金の使い方してんだよ……………」

~~~~~

呆然していると俺の携帯着信音が鳴り響く

「（ピッ）はい、もしもし（いかん、家のデカさによる衝撃でうまく応答でき）「もしもし、美栄か？俺だが」（前言撤回！）おいコラ親父いいいいい！」

「うおっ！な、なんだよいきなり」

「なんだじゃねえだろうが！なんだよあの家！」



「ん？気に入らなかったか？ちゃんとお前の好みに」そういう問題じゃねえよ」「へ？」

「なんだよあのバケモン並のデカさは！」

「ああ、その事な、実は……さ………ちょっとね美栄に頼み事があるんだけど」

「あん？なんだよ」

「うん、実はね………ちょ……と居候させて欲しい人が」

「居候？」

「うん実はさ、以前言っただ学園長に………」

く回想く

美栄の進学先が桜花学園に決まった後

「あ、それと実はねえ、ちょっと頼み事があるんだけどいいかい？」

「へ？はい、別に構いませんよ」

「あんたに断るっていう選択肢は無いのかい………まあいいさね、実はね、うちの学園の学生寮が随分老朽化してきてさ、新しい寮を建てるまで、あんたの息子が住む家に居候させてくれない

かい？」

「なんだそんなことですか、構いませんよ、美栄なら了承してくれると思いますから」

「そうかい？じゃあ頼んだよ」

「はい！」

〽回想終了〽

というわけなんだけど……………」

「……………親父」

「ん？」

「あんたは何を安請け合いしとんじゃあああああ……………」  
「……………」

「は、はいいいい！申し訳ありませんでしたあああああ！」

「たく！相も変わらずのお人好しバカ親父が……………」  
「……………はあやれやれ……………」

「わあつたよ、引き受けてやるっじゃねえか」

「へ？いいのかい？」

「いいもなにも、もう決定事項なんだろ？なら今更言っても仕方ないさ、ただ、もうこういう事は無いようにしてくれ、一言でいいから俺に報告するように」

「わ、わかつたよ、すまないね」

「ああ、で？この家にはあと何人来るんだ？」

「あゝ悪い、ちょっと時間の関係でかぞえ切れなくてさ」

「了解、だいたい理解した、聞き方を変えよう、あんたから見ても人くらいいた？」

「えゝつと、だいたい……………学園のクラス2つ分以上はいたかな？」

「……………」

このバカ親父は……………

「ん？どうしたの？」

「はああああゝゝゝゝゝゝ！！？？？」

なに考えてんだよゝゝゝゝゝゝ！！！！！！

次回に続く

**第一話、自宅到着・驚愕連続（後書き）**

次回から原作キャラ登場です

## 主人公設定（前書き）

主人公設定です

## 主人公設定

後藤義秀

容姿・銀髪黒眼・容姿イメージはスパロボOGのリユウセイ

服装・ジャケット等の羽織る系の服が好み

年齢・15歳

CV・三木眞一郎

性格・割りと礼儀正しく温厚、ただし一度熱くなるとけっこうはつちやけるタイプ

立場・桜花学園2ーF所属・荒木寮（つまり自宅）寮長（ようは家主）

武器・拳、トンファー  
備考

今学期から桜花学園に転校してきた一年生

父親が冒険家で幼少時からよく引つ張り回されてきた（父曰く「引つ張られたのは実質俺」）そのためかなりの冒険やチャレンジ好きで「まだ誰も」等のワードに敏感に反応する（ただし、立場はツッコミ（不動））

実は数年前に何回か光花町に来たことがあり、その時結構な人数と友達になった（この時点で数人落とした（無自覚））

趣味は散歩と武術の鍛錬、歌う事である

尚、歌はプロ級で、歌に合わせて声を変える特技がある

武術の腕は最強クラスで、百代（マジ恋）や恋（恋姫）と互角かそれ以上

更にはかなりのカリスマ性もあるという完璧超人

嫌いな物は暗闇と地震や雷等の自然災害

食べ物なら苦い物全般と和菓子、餅等である

一言・「主人公として頑張っていていくからよろしく頼む、尚、冒険の気配がしたらすぐに俺を呼ぶように！」





第二話〜居候第一団（初原作キャラ）登場！〜（前書き）

どうもお久しぶりに投稿します美仁です

## 第二話〜居候第一団（初原作キャラ）登場！〜

s a i d 美栄

さて、親父の話によると、居候する奴らは何日かに分けてくるらしい（まあ一日何人来るかは解らんが）  
という訳で現在俺は、この家の自分の部屋でくつろいでいる

「しかし、一体何人来るのかねえ」

ほんとに親父は一体何を考えているのやら……………（ブ  
ー————、キキー——！）ん？来たみたいだな、さてはて、一体  
どんな奴が来るのやら……………まあ確実に「あいつ」よりはま  
しだろうが……………

s a i d ———

その頃、美栄の家の前に「桜花学園」と側面に書かれた小型バスが  
止まり、中から数人の生徒と見られる者達がでてきた

「うわ——、なんつつかスゲー家だな」

「いやーとんでもない家やな、ナギの家と同じ位ちゃうん？」

「本当に凄い家なのゝ寮がなくなるって聞いた時はどうしようかと思っただけである意味ラッキーなのゝゝ」

「しかしいいのだろうか、いくら寮が建て直しされるとはいえ、見ず知らずの人の家にやっかいになるというのは……………」

「別にいいんじゃない？ だいたい遠慮なんてしてたら住む場所なくなるよ？」

「本当に凄い家だねゝ詠ちゃん」

「ほんとね（ていうかどこの誰よこんなバカでかい家建てたの）」

「凄いのはいいけど、車の中でずっと待ってたからお腹すいたよゝ」

「もう季衣、朝にたくさん食べたでしょ」

各々この家への感想を述べながら驚いているようである

「ていうかこんなでかい家に住んでる奴ってどんな奴なんだ？」

「きつとナギちゃんみたいに偉そうにしてる人に違いないの」

「おい沙和、その言い方だと私が偉そうにしているように聞こえるぞ」

「まあまあ、風先輩、名前同じなんだから仕方ないじゃん」

「でも本当にどんな奴なのかしら？こんなバカでかい家に住んでる位だから、案外沙和の言ってることも当たりかもしれないわよ」

と、こんな感じで、今度は家の主について話し始めた

「でも本当にどんな人なんで「こんな人だよ」え？」

突然家の方から声が聞こえ、皆が一斉にそちらを振り向く

ギギイイイー

それと同時に目の前の家の扉が開き、中から女子生徒達と同一年位の少年が出てきて

「おう、お前らが親父の言ってた居候の奴らか？」

そう、女子生徒達に聞いた

s a i d 美栄

「おう、お前らが親父の言ってた居候の奴らか？」

家から出て早々、俺は家の前にいる少女達にそう言った、少々失礼

な言い方かもしれないが、まあいいだろう

「あ、ああ、確かにあたし達がそうだけど……………あのお前は？」

「俺か？まあとりあえず、この家主（仮）の後藤美栄ってんだ、よろしく頼むぜ」

『え……………えええええ……………！！』

「どわっ！い、いきなりでかい声出すなよ」

「誰だってこういう反応するわよ！」

「そうか？」

「あの……………こんな大きな家に一人暮らしてというのは、さすがに驚くと思いますよ」

あゝ成る程

「ま、確かにそりゃそうか、俺も昨日は驚いたし……………」

「は？昨日？」

「ああ、俺ちよつと前まで他の場所にいてさ、ここに来たのは昨日なの、ついでに言うところ候のことを知ったのも昨日」  
たくっあのバカ親父め

「……………なんていうか、あんたも大変みたいね」

わかってくれる奴がいてくれて良かったよ

「まあな、で、そろそろ自己紹介といこうぜ、改めて、俺は後藤美栄、よろしく頼む」

「じゃああたしから、あたしは馬孟翠、よろしくな」  
一人目に挨拶してきたのは茶色の髪をポニーテールにした活発そうな美少女

「馬孟蒲公英、よろしくね」  
次に馬孟……………名字同じだから翠でいいか、翠と同じ名字でこちらは少し子供っぽい少女

「楽文風です、よろしくお願いします」  
銀髪で身体の所々に傷がついた少女

「うちは李成真桜や、よろしく頼むで」  
紫髪で関西弁の少女

「沙和は于則沙和なの、よろしくお願いするの〜」  
眼鏡をかけて髪飾りを付けた少女

「僕は許仲季衣！よろしくね、美栄の兄ちゃん」  
桃色の髪で無邪気っぽい少女

「私は典斧流々といいますが、よろしくお願いします」  
水色つばい髪で礼儀正しい少女

「董穎月です、これからお世話になります」  
銀髪で儂げ、という表現が似合う少女

「賈文詠よ、月共々世話になるわ」  
緑色の髪で眼鏡をかけた………なんか苦勞人つばい少女  
しかし、なんで女子ばかりなんだ？

「ああ、よろしく頼む、しかしすまん、その反応だとまさか家主が同年代だと今知ったんだろ？」

「まあね、結構若いつて聞いてたけどまさか同年代の人間だとはね」

「（はあ、あのバカ親父め（プチ怒））ほんとにすまん」

「別に構いませんよ、同年代の人の方が話し安そうですし」

「そう言ってくれると助かるよ、まあ立ち話もなんだし、荷物も置きたいだろうからな、とりあえず上がってくれ、部屋に案内する」

『よろしく（頼む）（お願いします（なの））（）』

「へっ、中也凄いだね」

どうやら皆驚いているようだ

「だろう?といっても、俺も昨日来たばかりだから、全部の場所把握してるって訳でもないけどな」

ホントに、何を思ってこんなデカイ家建てたんだか……..  
…はあ、まあいいか

「とりあえず、部屋はあつちだから、適当に選んでくれ」

『はい（ああ）（ええ）（なの）（）』

とまあ、一日目はこんな感じだった……..はあ（ため息）て  
いうか、なんで全員女子なんだよ……..  
一日目にしていきなり不安を感じる俺であった



## 第二話〜居候第一団（初原作キャラ）登場！〜（後書き）

なんか、あっさり終わってすいません  
これから数話はこの感じだと思います  
尚、今回から初登場したキャラの設定を簡単に紹介します

### 馬孟翠

所属・桜花学園高等部1ーF・武道部  
紹介

明るく活発、そして純情と絵に書いたようなスポーツ少女  
その性格のせいか、男子より女子に人気がある

### 馬孟蒲公英

所属・桜花学園中等部3ーF・武道部  
紹介

### 翠の妹

翠とは違い、悪戯好きな小悪魔系の性格  
人をからかうのが大好きで、一番の対象は高等部一年の魏文焰也

### 楽文凧

所属・桜花学園高等部1ーF・武道部  
紹介

かなり真面目で真っ直ぐな武道少女  
先輩である川神姉妹を尊敬しており、現在強くなるために鍛錬の毎

日である

李成真桜

所属・桜花学園高等部1ーF・工学部

紹介

機械が大好きでいつもカラクリの研究ばかりしている機械系少女である

ただし今まで開発したカラクリの成功例はあまりない

于則沙和

所属・桜花学園高等部1ーF

紹介

オシャレに心血を注ぐ生粋のオシャレ好き

最近では読モを始めたらしい

董仲月

所属・桜花学園中等部3ーF

紹介

かなり儚げな容姿が人気のメイド服が異常に合う少女

詠、恋、聖（華雄）の幼なじみ

賈文詠

所属・桜花学園中等部3ーF

紹介

一言で現せば「ツンデレ」な少女

幼なじみの月を溺愛しており、月に近づく男を24時間警戒している

許仲季衣

所属・桜花学園中等部1ーF・武道部

紹介

大食い、と言うより、食べるが人生という感じの少女  
同じクラスの張翼鈴々とはケンカ友達

典斧流々

所属・桜花学園中等部1ーF

紹介

料理が得意で料理人を目指して現在修業中の季衣の親友で幼なじみ  
高等部一年の荒木優沙に好意を抱いている

こんな感じですね、流々の紹介に出てきた名前はオリキャラです  
では、次回もお楽しみに

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2986o/>

---

桜花学園物語

2011年10月7日02時20分発行